

## イオンモール常滑における「国際関係学科・旅の写真展」開催報告

2016年6月、イオンモール常滑にて、外国語学部国際関係学科の学生・教員による行事「国際関係学科・旅の写真展」が行われました（主催：国際関係学科）。

国際関係学科は、2011年以來の恒例の行事として、学内で「旅の写真展」の実績を重ねてきました。学外の公共性の高い施設で大規模な展覧会を開催するのは、これが初めてのことです。

### ■愛知県-イオン間の包括協定の活用

この写真展は、「愛知県とイオン株式会社との連携と協力に関する包括協定」（以下、包括協定）に基づいて行われたものです。具体的には、愛知県（学事振興課、商業流通課）が仲介する形で、イオンに行事開催の提案を行い、イオンによって開催の意義が認められた場合、通常は有償であるイオンモールの会場や設備、機器などを無償で借りることができるというものです。

2016年1月、包括協定を活用した公開行事を募る旨の、地域連携センター長による学内での公募があった機会に、国際関係学科（担当：亀井伸孝・宮谷敦美）が申請し、同年2月にイオン側の許可の通知を受けて、本学初の包括協定を活用した行事が実現することとなりました。

### ■開催概要

#### 【とき・ところ】

2016年6月25日（土）10:00～18:00

2016年6月26日（日）10:00～17:00

イオンモール常滑 イオンホール B

（愛知県常滑市、名鉄「りんくう常滑」駅より徒歩1分）

【来場者】約370名（一般来観者約320名、学生・教員約50名）



### ■旅の写真展

本写真展では、国際関係学科の学生・教員が、最近、国内外の訪問先で撮影してきた写真のパネルを作成し、展示しました。

【展示作品数】102点（62人の学生、卒業生、教員による38か国・地域での撮影作品）

（62人の内訳：在学生：45人／卒業生：9人／教員：8人）

#### 【出展作品の撮影地】

【アジア】日本（福島／茨城／静岡／石川／福井／岐阜／愛知／三重／奈良／広島／熊本／沖縄を含む）／韓国／中国／モンゴル／台湾／フィリピン／インドネシア／マレーシア／シンガポール／ベトナム／ラオス／カンボジア／タイ／ミャンマー／インド／ネパール／【オセアニア】オーストラリア／【ヨーロッパ】ロシア／スウェーデン／オーストリア／クロアチア／イタリア／ドイツ／デンマーク／フランス／スペイン／イギリス／アイルランド／アイスランド／【中東・アフリカ】UAE／セネガル／カメルーン／【北米・中南米】カナダ／アメリカ／メキシコ／ペルー／チリ／アルゼンチン

### ■海外体験ショートプレゼンテーション

写真展会場では、土曜の午後、日曜の午前・午後に、10人の学生たちによる留学やボランティアなどの海外体験ショートプレゼンテーションを披露する時間帯を設けました。

【発表数】10件（10人による）、9か国に関する報告

【発表内容】ベラルーシ留学／マレーシア留学／スウェーデン留学／オーストラリアでのホームステイ／フィリピンスタディーツアー／フィリピン留学・ボランティア／シンガポール語学研修・観光／ミャンマーガールスカウト活動／オーストラリア語学研修／インドスタディーツアー



### ■ポスタープレゼンテーション

同会場に、国際関係学科の学生たちが代表を務める「学生自主企画研究」のポスター研究発表コーナーを設けました(6グループによる6件のポスター発表)。

【発表タイトル一覧】「インドネシア技能実習生の労働環境に関する研究」【2015年度、全学で2位の「銀賞」受賞】／「愛知県に外国人観光客を呼び込むプロジェクトー新規観光地の開拓と多言語による情報発信ー」／「県大における聴覚障害学生への情報保障ーノートテイク支援の課題と解決策の提言ー」／「外国にルーツを持つ子どもの進路選択に対する支援体制の構築」／「林業再生と持続可能な発展のためのプラン作成ー過疎化の進む山間地域における地域活性化の観点からー」／「地域資源を活用した「聖地巡礼マップ」作成のための調査ー若者・外国人のサブカルチャーのファン層に魅力的な名古屋プロデューサーー」

### ■主催者・協力者

【主催】愛知県立大学外国語学部国際関係学科(担当:亀井伸孝、宮谷敦美)

【協力】イオン株式会社／イオンモール常滑／愛知県産業労働部／愛知県立大学地域連携センター／愛知県立大学多文化共生研究所／稲村哲也愛知県立大学名誉教授(放送大学教授)

### ■新聞報道

本写真展は、土曜日に取材を受け、翌日『中日新聞』(2016年6月26日(日)朝刊20面(なごや東版)ほか県内複数の版)に掲載されました。この取材と新聞掲載についても、学生たちが自ら原稿を作成し、各報道機関に向けてプレスリリースを行ったことが実を結んだものです。

この報道が功を奏し、日曜日の来場者が劇的に増加するという効果がもたらされました。

### ■成果と展望

多くの一般来場者に写真やプレゼンテーションを楽しんでもらいながら、本学および本学科の魅力をも十分に広報する効果を伴いました。

本学初の包括協定の枠組み活用行事で、学内における段取りも含めてすべてが試行錯誤でしたが、学生たちが楽しみながら意欲的に準備に取り組みました。とくに入学したばかりの1年生たちが、学科の特色ある活動と受け止めて、数多くボランティアスタッフとして参加しました。

さらに、今回は学外展示であることに鑑み、学科卒業生たちの出品を受け付けました。多くの写真作品が寄せられたほか、休日開催であったこともあり、卒業生たちが一種の同窓会の機会として多数来場、在学生たちとも交流する機会となりました。



他の店舗や空港での開催など、次の開催を望む声も出ています。卒業生たちの期待も寄せられています。国際関係学科らしい行事として、世代を超えて継承されていくことが期待されます。

文責:亀井伸孝・宮谷敦美(国際関係学科)